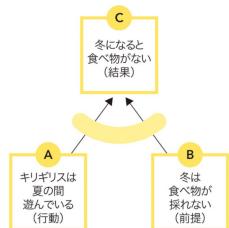


問題への力

2024/11/11

イントロ



学ぶことの最大の障害=答えを教えること

WHY? →自分で答えを見つける機会を永久に奪ってしまうから

現代のVUCA

正解のない世界

変えられるのは

「行動」と「前提」

自分での

自分で問いつめて、正解を出す

C1 悪い問い

- 問題を解決しないがならない
- (1) から達さざる
- 言ひ訳を引き出していく
- 自分を責め、落と込む
- 本筋手の隠りを置く
- 人間関係が悪くなる

「なぜ」を望むちで
→相手の自己防衛本能を
刺さる深い工夫が必要

学びを深める4つの問い

わかったことは何ですか？

それを活かして次にやることは何ですか？

それをやるとどういうメリットがありそうですか？

考えるところで「希望」を生む

実践して学んだことは何ですか？

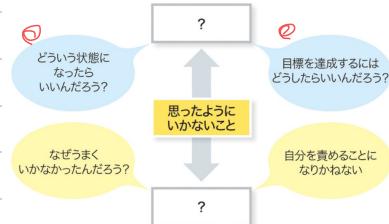
C2 良い問い

問題を正確に定義する3つの問い合わせ

- 現状を聞くための質問
「望ましくない現象は何ですか？」
- 目標を聞くための質問
「望ましい現象は何ですか？」
- 問題を定義するための質問
（「望ましくない現象」と「望ましい現象」を読み上げて）
「このギャップが問題ですよね？」

手段目的
≠ 現象

図5 | 失敗したときの2つの問い合わせ



② ポジティブに考える

2024/11/11

C3 正解でつくる

良くない理由を考える

図6 | 3種類しかない結果

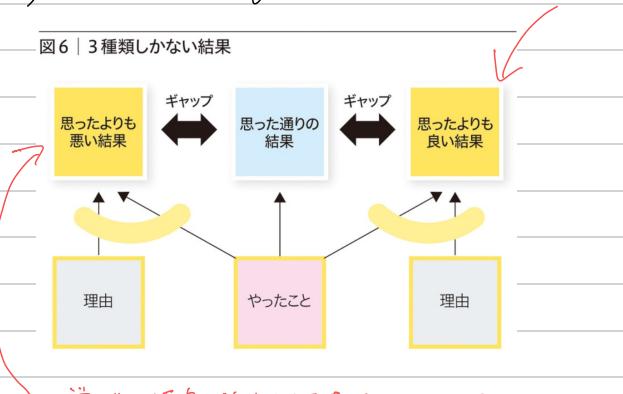


図7 | 解決策評価のための4象限

		副作用なし	副作用あり
目標達成	良い解決策	悪い解決策	解決策とはいえない
	問題外		

副作用を角削ぎする4つの限界

- 気がかりなことはありますか？
- その原因はなんでしょうか？
- その原因を解消する方法はありますか？
- 気がかりなことが解消するとどんな利点がありますか？

やることを真剣に考えるニギがかりが生じる

→ 前もって言ってくれる人

→ 応援努力

図8 | 伝説の営業マンの仮説の論理構造

